

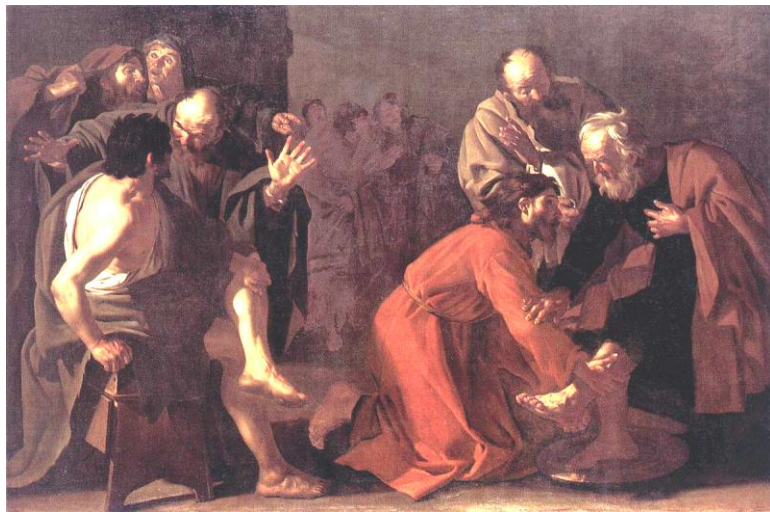
< 弟子の足を洗う主 >

ヨハネ 13:1-11

…イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。
(13:1)

ご自分が十字架にかけられ殺されること、それも、目の前にいる弟子の一人に裏切られ、他の弟子たちも自分を見捨てて逃げることを知っておられた。どんな気持ちだっただろうか。

イエスは夕食の席から立ち上がって…弟子たちの足を洗い…始められた。(13:4-5)



「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」 (13:6)

「決して私の足を洗わないでください。」 (13:8)

上に立つ者には、力や影響力、武力や軍事力をもって支配してほしい。

後で分かった。最後まで愛して下さったんだ(1節)と。

「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」 (13:8b)

わたしはあなたと関係を持ちたい。この数時間後には、私を見捨てて逃げ、「イエスなど知らない。」というペテロとの関係を持ちたい。何としてもあなたの足を洗うと言われている。

「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。

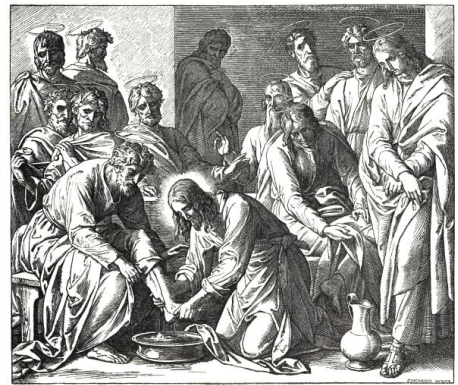
…が、皆がきよいわけではありません。」…イエスは彼らの足を洗うと… (13:10, 12)

ユダの足も洗われた。最後まで愛された。ユダは、主イエスの愛から落ちていない

低くなられた神は受け入れがたい。

しかし、低くなられたイエス・キリストを信じるところに、いと高きところにおられる神の力が働き、人は罪と死から神のいのちへと救われる。

私たちの「自分の信じたい神を信じる高慢」は砕かれ、すべての膝は神の前にかがめられる。



「…この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。…ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。…召された者(呼ばれて信じた者)にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」 (コリント人への手紙第一 1:21-24)

ユダヤ人は、「これこそ神が遣わした者だと分かるしるし」を求めたが、イエスは弟子の足を洗ったギリシヤ人は、神はアパテイア＝心動かさない存在だと結論付けたが、イエスは悲しみ、愛し、苦しまれた。

へりくだって私たちを愛する神を否定し、まことの神を退けて自分の信じたいものを神とする高慢に高ぶれば高ぶるほど、神は、ますます低く私たちの罪の深みにまでく下さってくださった。



「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。」 (イザヤ 52:7)